

F-38 理論食料費試算式とその展開(第一報)

福岡県社会保育短大 出石康子

目的 理論食料費試算式は、摂取すべき栄養内容の変化、物価の変動、食生活の変容などに応じて、それらの変化を客観的に導入して変形できるものが望ましい。また家政学の立場に立つ研究としては、国民1人当たりの平均的食料費の試算にとどまらず、種々の家族構成をもつ家庭の食料費や、食習慣の異なる多くの地方の集田給食の食料費などへも、容易に適用できるような配慮が必要である。本研究は基本となるべき理論食料費試算式の作成とともに、諸種の食料費試算の目的に応じた基本式の変形を意図して着手したものである。

方法 理論食料費試算式には、栄養面と文化的余裕面とを考慮した。まず栄養面から、国民栄養基準量を充足するための食料費を試算して標準的食料費として(学会誌/26号参照)、これに文化的余裕分を加算した。文化的余裕分の算出には外食率を参考とした。こゝに求められた理論食料費試算式を基本型とし、これに諸種の食料費の特徴をあらわす指数を導入して、多方面への展開を工夫した。

結果 理論食料費試算式の基本型は下記のとおりである。

$$A(\text{理論食料費: 国民1人1日当たり}) = 10 \sum_{i=1}^n P_i + A\chi$$

P_i = 成分別平均単価
 n = 成分種類数
 χ = 文化的余裕指数

上記基本式は種々に変形して、多方面の食料費試算が可能である。1例として

$$A_j(\text{家族別食料費}) = 10 \sum_{i=1}^n P_i + A_j \chi'$$

A_j = 所要量別指数 j = 所要量別区分
 χ' = 所要量区分別文化的余裕指数